

平成 28 年度事業報告書 (28.4.1 ~ 29.3.31)

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じての国際間の相互理解の推進及び我が国文化の発展のため、下記の事業を行いました。

石洞美術館では、公益社団法人日本工芸会と共催で、公募展である「第 45 回伝統工芸日本金工展」を開催しました。また、石洞美術館開館 10 周年を記念して、石洞美術館の所蔵品の中核をなす古染付を展示した展覧会「古染付 ～このくにのひとのあこがれ かのくにのひとのねがい～」を開催しました。

助成事業では、海外調査の研究助成を中心に、5 件の助成をしました。

また、33 回目となる淡水翁賞では 4 名を表彰しました。

II. 事業毎の概要

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

① 展覧会

- ・平成 28 年 1 月 16 日より 4 月 3 日まで「スペイン陶器展 ～煌めきのイスパノ・モレスク～」開催。

開館日数 67 日、来館者 1,610 名、1 日平均 24.0 名

(内平成 28 年度 開館日数 3 日、来館者 143 名、1 日平均 47.7 名)

- ・平成 28 年 4 月 29 日より 6 月 19 日まで「第 45 回伝統工芸日本金工展」開催。

開館日数 45 日、来館者 2,358 名、1 日平均 52.4 名

- ・平成 28 年 7 月 16 日より「古染付 ～このくにのひとのあこがれ かのくにのひとのねがい～」展開催。会期は 4 月 2 日まで。

3 月 31 日までの開館日数 196 日、来館者 4,032 名、1 日平均 20.6 名

② 広報活動

- ・「ぐるっとパス 2016」に参加
- ・新聞各紙や地下鉄の広報誌等に各展覧会の広告掲載。

③ 資料の収集

・資料の購入

《陶磁器》古染付 7 件（向付 2 件 6 点、鉢 2 件、皿 2 件、火入 1 件）、
中国陶磁器 4 件（瓶 1 件、皿 1 件、動物俑 2 件）、
琉球陶器 5 件（瓶 5 件）
《絵画》小杉放菴作品 1 件

以上 17 件を購入

④ 博物館館務実習受入

・法政大学 1 名

⑤ 美術館等の連携

・足立区内の文化施設 3 館と連携して「コンサート in ミュージアム」を開催しました。
石洞美術館では、「古染付 ～このくにのひとのあこがれ かこのくにのひとのねがい～」展に合わせて、箏（琴）と二胡のコンサートを行いました。

⑥ 鑑賞教育

・足立区立千寿小学校 6 年生を対象とした鑑賞教育を実施しました。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

- ① 米国ハーバード大学（東アジア言語文化学科）に対し当財団と土屋文化振興財団の双方で \$ 5,000 ずつの助成を行いました。
- ② 生田ゆき（三重県立美術館学芸員） 「紅型型紙に見る本土との交易史」（研究助成）
- ③ 松崎裕子（益子陶芸美術館学芸員） 「イギリスのスリップウェア研究 ―マイケル・カーデューを中心に―」（研究助成）
- ④ 小林祐子（三井記念美術館主任学芸員） 「安藤緑山の牙彫に関する調査・研究」（研究助成）
- ⑤ 佐々木類（富山市立富山ガラス造形研究所） 「蓄光ガラスのガラス造形への応用」（研究助成）

以上 5 件、助成総額 ￥ 2,956,100

(2) 淡水翁賞（若手金作家奨励賞）

第33回淡水翁賞については、所定期日までに4名の応募があり、選考委員会の議を経て、最優秀賞に中嶋明希氏、優秀賞に般若泰樹氏、長野 新氏、南 時俊氏が選出され、平成29年3月13日に授賞式を挙りました。

賞金総額 ￥ 1,000,000

附属明細書について

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

平成 29 年 5 月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金